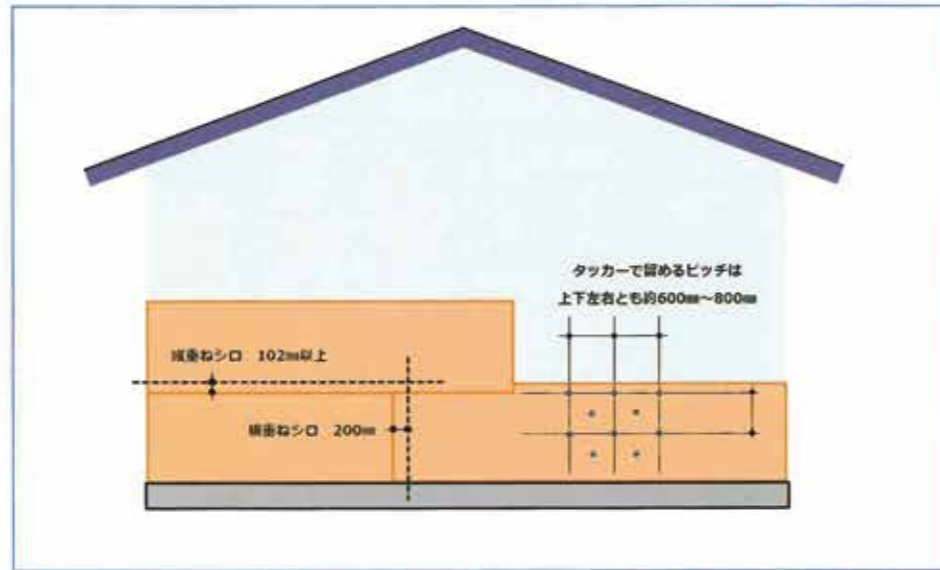


ハイドロギャップ 施工手順



①ハイドロギャップは1階部分の下から貼り始める

土台水切の立ち上がりに30mmほど被る様に、ハイドロギャップの下端を合わせます

②横の重ねシロは、200mm以上とする

③縦（上下）の重ねシロは、102mm以上とする（重ねシロラインが印刷されています）

④タッカーで留めるピッチは上下左右とも、約600mm~800mmとする

※タッカーは千鳥に留めた方がより効果的です



■厚さ(隙間サイズ) 1mm (0.04インチ)
■幅 1524mm (5フィート)
■ロール長さ 30.48m(100フィート)
■紫外線耐候日数 120日

■製品組成 ポリプロピレントリラミネート
■透湿性 16perms
■防火評価 クラスA



代理店

INDEX JAPAN
Zero Energy Passive House Development

資材受付
センター

〒436-0088 静岡県掛川市葛ヶ丘2丁目8-16
TEL.0537-26-9909 FAX.0537-26-9998
[E-mail] info@indexjapan-basf.com
[WEB] <https://www.indexjapan-basf.com/index.html>



外部気密もとれる透湿防水シート
世界基準

外張り断熱・外断熱専用・透湿防水シート

ハイドロギャップ



INDEX JAPAN
Zero Energy Passive House Development

<https://www.indexjapan-basf.com/>

外張り断熱・外断熱専用・透湿防水シート

ハイドロギャップ



ハイドロギャップ 製品概要

高気密・高断熱と言った視点から「外断熱」や「ダブル断熱」等の取り組みが増えて来ました。

所謂外断熱工法の場合、フェノールフォームやポリスチレンボードと言った断熱材を、外壁の透湿・防水紙にビスなど用いて直接留める施工が一般的です。

この場合開口部回りや断熱材のジョイント或いはビス穴等、何らかの理由で断熱材裏側に入り込んだ雨水や湿気は逃げ場を失い「滞留」する事になります

滞留した雨水や湿気は熱を伝えやすく、外断熱材の性能を著しく損なう要因になります。

更には夏の逆転結露を誘発し、又、カビの発生や木材の腐食の原因など「構造躯体劣化」に直結する大きな問題でした。

新しく開発された「ハイドロギャップ」は、外断熱材や胴縁などの裏側に侵入した雨水や湿気をスムーズに排水、排湿する画期的な「透湿・排水・排湿・気密・防水シート」です。

防水紙表層に点付けされた1mm厚みの樹脂スペーサ（ギャップ）は、防水紙から断熱材を1mm離す事で、断熱材裏側の雨水を効果的に排水し、断熱材と防水紙の間の乾燥状態を維持します。

1mmのギャップでは空気対流は起きず、外断熱材の効用を損なう事は有りません。

又、木製胴縁を使用した場合、雨水が胴縁脇を流れると、毛細管現象で胴縁裏側に雨水が引っ張られ、胴縁を留めているビス穴、或いは釘穴から雨水侵入すると言った事象が有りました。

しかしハイドロギャップを施工した場合、1mm厚のギャップ（隙間）は雨水をビス穴、釘穴に引き寄せさせる事は無く、スムーズに排水させる事が出来、木製胴縁を常に乾燥した状態にします。

「ハイドロギャップ」は、外断熱や胴縁を留めているビス穴からの雨水侵入を防止し、防水紙と外断熱材、防水紙と胴縁の間を水分から保護し、構造躯体を「恒久的」に維持する画期的な次世代ハウスラップです。



外断熱材に対応した排水力

外断熱材と透湿防水紙の間に1mm厚の平均的なギャップ（隙間）を作り、雨水を滞留させる事無く効率的（短時間）かつ効果的（大量）に排水します。

木製胴縁の保護

胴縁と防水紙の間に1mm厚のギャップ（隙間）を作る事で、毛細管現象による胴縁のビス穴、釘穴からの雨水侵入を防止します

一方通行の透湿性

室内側から外部側への一方通行透湿機能により、夏の逆転結露を防止します。

耐防蟻薬剤

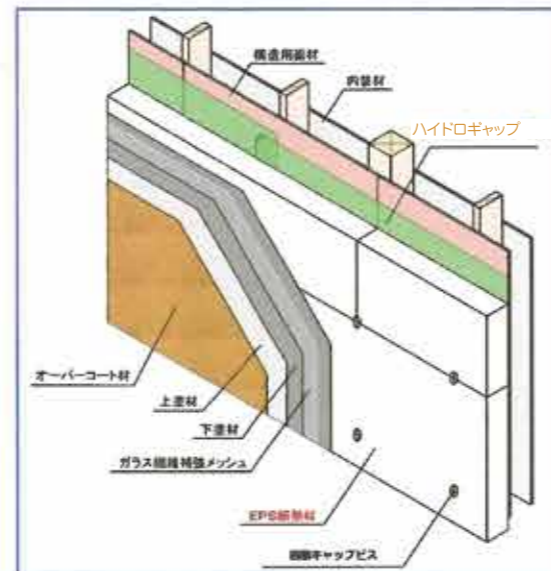
防蟻薬剤処理した構造用面材、胴縁などに触れても防水性を失う事は有りません。

強度・耐久性

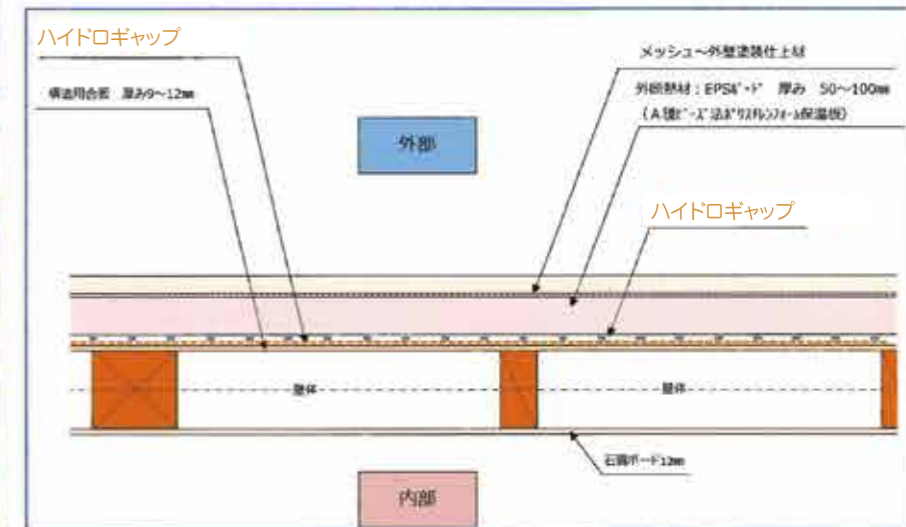
2種類の不織布を3層構造にした特殊素地は、一般的な防水紙の2倍の強度が有り、破れにくく、対紫外線、耐熱、耐久性に優れています。



ハイドロギャップ EPS外断熱仕様



1mm厚みの樹脂スペーサ（ギャップ）は、防水紙から断熱材を1mm離す事で、断熱材裏側の雨水を効果的に排水し、断熱材と防水紙の間の乾燥状態を維持します。1mmのギャップでは空気対流は起きず、外断熱材の効用を損なう事は有りません。



ハイドロギャップ 縦胴縁仕様

胴縁を施工する際においても、ハイドロギャップは1mmの隙間が出来ますので、これにより胴縁が防水紙に密着する事で起きる毛細管現象で水を引き寄せさせる事もなくなり、木製胴縁の腐れを防止する事になります。雨水をビス穴、釘穴に引き寄せさせる事も無く、スムーズに排水させる事が出来、木製胴縁を常に乾燥した状態にします。

